

野菜におけるドローンを使った省力防除の実証

農業技術センター普及指導部

実施期間：令和5年～7年

課題・目的

- 本県では、生産性の向上とともに持続性の高い農業を実現するためスマート技術の導入を進めており、既に水稻ではドローンによる防除や施肥が一部実用化されている。
- その他の作目では、ドローン散布に対応できる登録農薬が少ないため実用化が遅れている。
- 近年、作目によっては登録農薬が増えてきたことから、JAさがみ、JAあつぎと連携して、キャベツ、スイートコーンでドローン散布の実用性を実証した。

活動内容

■ドローンでの登録農薬が多いキャベツで、綾瀬市業務用キャベツ部会を対象に定植後の農薬散布をドローンに散布に置き換えて実証した結果、慣行と同様の防除効果が得られ、散布作業時間は慣行の10%未満であった。

■厚木市で草丈が高く防除労力が大きいスイートコーンで、出穂期のドローン散布を検証した結果、慣行と同様の防除効果が得られ、散布作業時間は慣行の10%未満であった。

■農業者は作業時間の短縮に驚く一方、農薬の少量散布に懸念があったため、感水紙と航跡図を用いて付着量を見える化し、この不安を解消した。



スイートコーンへの薬剤散布の様子

今後の展開

- 野菜では、まだ登録農薬が少なく、散布回数にも制限がありローテーション防除が組めないなど問題点はあるが、ドローン散布による労力削減への期待は大きい。
- 当面はドローンによる散布業務委託の機会を活用して、更なる実証を重ねていく。
- 今後、ドローン防除に適した防除体系の検討を行い、生産の安定と拡大を目指す。